

◎点検評価運営委員会

校長 水野 豊

1. 基本方針

「進化する FD」を目指し、点検内容・方法の改善を加え、評価活動を充実する。また、点検・評価した結果（資料）のフィードバック法を確立するとともに、データベース化を推進する。機関別認証評価や JABEE 受審を念頭に入れた「点検評価報告書」の作成を行う。

2. 平成17年度実施計画

(1) 授業、勉学アンケート

平成16年度に実施したアンケートの取り纏めと分析を行い、改善の必要な授業や項目についての提言を行う。

- ・ 授業アンケートについては、科・学科ごとに分析し、取り纏めた。
- ・ 勉学アンケートについては、その結果を教員会で報告し、各担任を通じて学生へのフィードバックを依頼した。
- ・ いずれのアンケートも集計・分析の時期が遅く、フィードバックや結果の活用がうまくできていない。来年度は早い時期に活用していく予定である。

(2) 保護者アンケート（懇談会や公開授業時）

随時、保護者の意見が聞ける機会にはアンケートを実施し、その結果に基づき、各分門に対して改善事項を提供する。

- ・ 公開授業（参観日）時のアンケート結果は、運営会議で報告し、コメント等を含めて各科・学科へフィードバックした。

(3) 学生による担任アンケート

平成16年度に実施した学生による担任アンケートの結果の公表とフィードバックを行う。

- ・ 16年度に実施した学生による担任アンケートの結果は各担任へフィードバック（クラス、学年平均、全平均のグラフとコメント）すると共に、運営会議でも報告した。
- ・ 17年度のアンケートは2月に実施し、結果は同様なフィードバックを行う予定である。

(4) 各種委員会アンケートの実施

教務委員会、学生委員会、寮務委員会、専攻科教育委員会等が実施した各種ア

ンケートの結果と分析を取り纏める。

- ・教務委員会では、昨年と同様な新入生アンケートを実施し、その結果を教員会で報告した。

(5) アンケートの実施間隔・時期の見直し

上記、各種アンケートの実施間隔、時期、対象などの見直しを行う。

- ・授業アンケートについては、アンケート項目の見直しを行い実施した。また、1教員あたり3科目程度として実施した。
- ・勉学アンケートについては、来年度から、1，3，5，年生を対象として毎年実施することを決めた。

(6) 各部門の取り組み状況の取り纏め

各部門の年度運営目標、教育改善推進計画に対する実施状況と結果およびその評価を取り纏める。

- ・各部門の平成17年度運営目標、教育改善推進計画に対する実施状況を平成17年3月15日までに各部門が報告し、調整の上、取り纏めて、平成18年度の4月の第1回運営会議で報告する。

(7) 点検評価報告書の構成の見直し

機関別認証評価を基づいた報告書の構成を確立する。また、そのためのデータベース化を推進する。

- ・平成19年度に本校は機関別認証評価を受けることになっているので、平成17年度から前年度の点検を、その様式に基づいた自己点検書で行うことにした。

(8) 運営諮問会議の実施と結果の活用

平成16年度に実施した運営諮問会議の結果を点検評価報告書に盛り込む。また、平成17年度の運営諮問会議の実施に向けた準備を整える。

- ・平成16年度に実施した運営諮問会議の結果は運営諮問会議報告書に取り纏めて、改善への資料とすべく、全教職員に配布した。

(9) 中期計画の進捗状況の把握と各部門に対する提言

中期計画の進捗状況を調査し、進んでいない事項に関して、各部門に推進を依頼する。

- ・各部門は中期計画を睨んで、年度ごとの運営目標や実施計画を策定しているが、中期計画との関係からそれらをチェックし、各部門に推進を依頼することはできなかった。

(10) 各種アンケートの分析結果のフィードバック

アンケート分析から問題点を抽出し、関係部門や個人に対して提言や改善依頼を行うなどのフィードバック方法を確立する。

- ・ 授業アンケートと勉学アンケートのフィードバックの時期や方法の改善ができていない。
- ・ 来年度は、集計方法（たとえば、webによる実施など）の検討を行い、速やかな分析、フィードバックが行えるようWG体制を予定している。

(11) 点検評価の基礎となる教育研究情報の収集・整理・蓄積

学校改革推進室と連携して、教育研究情報や点検評価結果のデータベース化を推進する。

- ・ JABEE 受審の関係で、点検書の作成に大幅な遅れがでたため、点検書教育研究情報や点検評価結果のデータベース化を平成17年度中に進めることができなかったが、点検書で用いたデータについてはデータ収集担当部署にて管理することになっている。

総括的な評価と課題

- ・ 平成16年度の自己点検評価書は、認証評価の自己点検書の形式で行ったが、作業が大幅に遅れるなど課題を残した。
- ・ 第三者評価のシステムが実質化してきたので、点検評価運営委員会のもとの2つの専門部会は、次年度以降点検評価専門部会として統合し、効率的、機動的な体制とすることを決定した。
- ・ 各種アンケートのフィードバックの迅速化と活用を更に進める必要がある。